

令和7年度 「五條市ビジョン一部見直し」についての意見

意見内容	回 答
<p>【地域力創造推進事業について】</p> <p>全体としての目標である『五條市を知ってもらい、来てもらう』が大きすぎ事軸が不明瞭だと感じます。</p> <p>チーム発足 市内 31 事業者が参加とありますが細かい点への指摘ですが、</p> <p>①私の感じる限り告知が不十分で事業者の偏りを感じます。五條と言う地域を考えるとすでに自力を持っている方々への役所の働きかけを多く感じます。</p> <p>②「食を知ってもらう」は結果が早く良いです。イベント久々知から外部からの導入と持続性が不十分と感じます。各種団体や青年部等がすでに行っている事業との差を感じず、五條市が公務として開催する意義を感じません。</p> <p>③活性化の実現</p> <p>チームの自立とありますが 参加者からの聞き取りで「五條市主導で開催されている」との認識であると聞きました。行政が成果主義で介入しすぎるのではないですか？経済は生きものです。イベントより重要な物が有ると思います。</p>	<p>まずはチームとして、「五條の食」を知ってもらうために商品開発とイベントへの出店を実施します。今後様々な取組を積み重ね、五條市の認知度アップに貢献したいと考えております。</p> <p>①チーム発足時の公募は、市広報誌、市ホームページ、市Instagramといった多様な媒体で広く告知を行い、市からの働きかけはおこなっておりません。</p> <p>②「イベント、商品開発、PR、廃校活用等」を実施したいという事業者の意見をもとに取り組みを実施しております。市は事業者の意見を具体的に実現するために、支援することが責務であると考えます。五條市産の新たな商品を、イベントで販売し五條市の食を PR することは、初年度における導入策であると認識しております。</p> <p>③行政が成果主義で介入しているものではありません。</p> <p>本事業は、チーム公募当初から事業者が主体で、市は「伴走」するものとしてスタートしました。立上げ時の円滑な運営のため、市が主導した部分もありますが、今後市は事業者同士のマッチング、情報提供など、「伴走型支援」を実施してまいります。</p> <p>また柔軟で長期的な視点に立った支援の検討も進めます。</p>

令和7年度 「五條市ビジョン一部見直し」についての意見

<p>・ N01～7については、時点の変更や計画の終了等、形式的な見直しであり、合理的なものと認められる。</p>	<p>ご指摘のとおり、計画期間の終了や時点修正など、内容の実質的な変更を伴わない形式的な整理を行ったものです。 今後も、計画の整合性を保ちながら、必要な箇所について適切な更新を行い、事業の進捗管理と計画の実効性確保に努めてまいります。</p>
<p>・ N08 の3つの新規事業は、人口減少にともなう活力逓減が課題となる五條市において、いずれも産業振興、域内活性化、交流人口増加につながりうるものであり、時宜にかなった事業と認められる。今後の順調な展開を期待したい。</p>	<p>N08 で掲げる3つの事業は、ご指摘のとおり、人口減少が進む本市において、産業振興や地域活性化、交流人口の拡大につながる可能性を有する取組として位置付けております。 今後は、事業の目的や効果を踏まえつつ、関係事業者や地域団体との連携を図りながら、着実な事業展開に努めてまいります。また、事業の進捗や成果を適切に検証し、地域の活力向上に寄与するよう取り組みを進めていきます。</p>
<p>【特定地域づくり推進事業】 雇用の推進になりよいと思います。</p>	<p>特定地域づくり推進事業は、地域の担い手不足の解消や、地域内の多様な働き方の創出を目的としており、安定した雇用機会の確保につながる重要な取り組みです。 五條市としても、地域の魅力を活かしながら、若い世代を含む幅広い人材が地域で活躍できる環境づくりを進めてまいります。今後も事業の効果を検証しつつ、地域の活力向上に向けて取り組みを推進していきます。</p>

令和7年度 「五條市ビジョン一部見直し」についての意見

【地域経済循環創造事業】

地域の有効活用大変良いと思います。

小規模農業従事者の意欲を高める？とありますが下手な手助けは痛みを長引かせるだけだと感じます。

集約による大規模化事業化こそが地域の産業育成に貢献し地域活力になると考えます。

ご指摘のとおり、農業分野における持続的な産業育成には、経営の効率化や規模の適正化が重要であるとの認識を共有しております。

地域経済循環創造事業は、市が直接的に農業経営へ介入するものではなく、地域の事業者や関係団体が主体となって取り組む活動を支援する仕組みです。

そのため、小規模農家への一律的な支援を行うものではなく、地域の実情に応じて、事業者自らが選択する経営改善や連携・集約化の取組を後押しすることを基本としています。

市としては、事業者主体の取組が地域全体の産業力向上につながるよう、必要な環境整備や情報提供に努めるとともに、地域資源を活かした持続可能な産業づくりを引き続き支援してまいります。

令和7年度 「五條市ビジョン一部見直し」についての意見

【地域力創造事業について】

①公的責任の所在について

活性化事業において「自立」や「民間への委託」は一見効率的に思われるが、行政が早い段階で支援側に回る（後押しに留まる）ことは、結果として事業の継続性や責任の所在を曖昧にするリスクがある。市が自ら汗をかき、確固たる道筋を構築することこそが、真の「持続可能な」運営に繋がると考える。

②行政の主導的役割と危機感について

資料にある「チームの自立」という言葉が、実質的な「行政の役割縮小」に繋がっているのではないかという懸念を抱いている。街づくりの根幹となる事業を成功させ、持続させるためには、市が「後押し」という一歩引いた立場に留まるのではなく、自らが主体となって道を切り開き、困難な調整にも責任を持って取り組む姿勢が不可欠である。

私の身近な方からも、「五條市の未開発な広大な土地を活かして、プロスポーツチームのキャンプ地誘致や、最新技術を導入した大規模農業の拠点化など、スケールの大きなプロジェクトを実現してほしい」といった、将来への期待を込めた具体的な声が上がっている。

こうした大きな計画こそ、すでに検討されている可能性も加味した上で、市が先頭に立って国や民間企業と交渉を進め、強力でリードすべき分野である。行政のリーダーシップが希薄になれば、結果として地域の活力を削ぐことになりかねない。市が最後まで責任を持って事業を牽引する覚悟を、改めて明確に示していただきたい。

①市が目指す「自立」とは、主体である事業者の取り組みを、事業自体が生み出す価値によって運営が継続していく仕組みを構築することです。本事業は、チーム公募当初から事業者が主体で、市は「伴走」するものとしてスタートしました。事業者主体で進めることで、真に地域に根差し「持続可能な運営」に繋がると考えております。

②ご意見をいただきましたとおり、大きな計画に対して行政がリードすべき事業もありますが、本事業では事業者が主体となり、市はそれを実現するための条例や規則の見直し、調整など、行政にしかできない役割を担います。チーム立ち上げ初期の円滑な運営のため、行政が主導した部分はありますが、チーム公募当初から、事業者が主体で運営することを目標としております。

これは「行政の役割縮小」ではなく、行政と民間がそれぞれの強みを活かした役割分担をおこなう公民連携の形であると捉えております。

令和7年度 「五條市ビジョン一部見直し」についての意見

③具体的な「伴走」の定義について

単なる「後押し」ではなく、事業が完全に定着し、地域に根付くまでは、市が主体性を持って運営に深く関与し続けるべきである。今後、どのように市が「主体的な責任」を全うしていくのか、具体的な運営方針を提示されたい。

③本事業では事業者が主体であり、市は事業者同士のマッチングや情報提供など、企画、運営、発展の各段階において、民間事業者の皆様へ寄り添い、共に課題を解決するための「伴走者」であると考えております。